

ふれあいソフトミニバレーボール競技規則

施設と用具

規格	バドミントンコートを使用（6.10m×13.40m）
ネットの高さ	高さは、1.85mとする。
ボール	ソフトミニバレーボールを使用する。（円周78cm±1cm）

競技参加者

チーム	監督1名 選手7名以内（ただし、監督と選手を兼ねることができる。）
制限	中学生以上とする。混合チームの場合は、ゲーム中1チームに女性が2名以上入っていないなければならない。

得点、セット及び試合の勝者

試合の勝者	1試合のセット数は3セットとし、ラリーポイント方式で2セット先取した方のチームがその試合の勝者となる。
セットの勝者	1つのセットは先に15点目を得たチームが勝者となる。ジュース制（3セットとも）は採用しない。

試合の開始

1. 試合は、プレーボールの合図により、最初のサーバーのサービスにより開始される。
2. サービスは、サービス権が移行（サイド・アウト）した時点で得点を得たチームが移行する。ただし、1人で連続して、サービスすることはできない。
3. 第2セットは、第1セットにコートを選択したチームからサーブが始まる。
4. 第3セットは、サーブ権あるいはコートを選択するトスを行う。
5. 1対1の最終セットでは、いずれかのチームが8点先取したときコートを交替し、競技を移行する。この場合の競技者のポジションは同じ位置でなければならない。

タイムアウト

タイムアウトは、1セットに1回、1回について30秒以内とする。

競技者の交代

競技者の交代は、ボールデッドのときに審判に告げて行なう。
1セットごとに3回（3人）以内とする。

サービス

1. サービスはネットに向かって右後ろの選手が、アタックラインの後ろからアンダーで相手コートに対して打ち、ボールを打った瞬間からインプレーの状態になる。サービスがネットに触れた時は相手チームに得点が入りサービス権が移行する。
2. サービスをする際に前衛、後衛の左右のポジションが入れ替わった場合は反則とし相手側の得点とする。

ボールへの接触

- 接触回数
1. 相手コートへボールを返す前に、規定回数（3回）を下回った場合、もしくは規定回数（3回）を超えてボールに触れた場合は反則となる。ただし3回目のボールがネットに触れた場合、もう1回誰でもボールに触れることができる。
 2. 同一チームの2人以上の競技者が、ボールに同時に触れた場合、ボールの接触回数は1回とし、その競技者のいずれかの競技者が続いてボールに触れても反則とはならない。
- 接触時の条件
1. 競技者は、腰を含めてそれより上のどの部分を使用してボールに触れてもよい。
 2. 競技者が、ボールを連続して2回プレーしたり、あるいは、ボールが身体の数箇所に連続的に触れた場合は反則となる。（ドリブル）ただし、競技者に触れたボールがネットにかかった後（3回目）同じ競技者がさらに続けてそのボールに触れても反則ではない。
- アウト、イン
ボールの判定
- ボールの端がライン上にかかっていればインボールとする。

ネット付近でのプレー

- ボールアウト
- ボールが次の状態になったときは、ボールアウトとなる。
- ①ボールがコート外の床・地面・支柱ネット下部分または物体に触れるか、もしくはネットの下を完全に通過したとき。
 - ②ボールが支柱外の上方を完全に通過したとき。
- バックアタック
- 後衛の競技者は、アタックラインより前でアタックしてはならない。ただし、返球時に打点より上方へ返球すればよい。
- アタック
- アタックのとき、片足は必ず床に着いていなければならない。
- ブロック
- ネットに接近して、手あるいは腕を用いて相手からくるボールに接触することをブロックといい、その行為は1回の接触とみなさない。
- タッチネット
- インプレーの状態にあるとき、競技者はネットにふれてはならない。触れた場合、反則とし相手の得点とする。
- オーバーネット
- インプレーの状態にある場合、競技者は相手方コートにあるボールにネットを越えて触れてはならない。触れた場合、反則とし相手の得点とする。
- アンダーオーバーネット
- 競技者は、ネット下を越えて、相手方コート上でボールに触れてはならない。触れた場合、反則として相手の得点とする。
- バッシングザセンターライン
- 足及び身体がネットの下に引かれているセンターラインを越えると反則です。ただし、センターラインに足が乗っていればセーフです。

ソフトミニバレーボールコート 概要

